

發句題林十二月抄全

911.3

木



文 化 丁 丑 新 刻

金雞先生編輯  
花屋菴大人閱

發句題林十二月抄全

大阪書林 三書堂藏

伴賢翁是七

己亥 亥年

十月十日

海防

秘史

發句題林十二月抄目錄

正月

立春

初烏

初東風

門松

鏡餅

水祝

弓始

藏開

元日

初夢

若水

大服

屠蕪

初曆

馬乘始

萬歲

初春

初霞

祇園削掛

齒固

喰積

着衣始

舟乘始

大黑舞

初雞

初日

惠方棚

雜煮

年男

吉書始

松雞

猿曳

鳥追  
福引  
小松曳  
縣召  
藜入  
鶯菜  
梅  
于大根  
白魚  
懶登魚  
淡雪

破魔弓  
畚下  
福壽草  
粥杖  
若草  
落臺  
柳  
于燕  
蛤  
春日  
殘雪

羽子板  
松内  
若菜  
小豆粥  
下崩  
芥  
海苔  
鷺  
蜆  
春風  
雪解

手鞠  
子日  
七種  
左義長  
莖立  
木芽  
若海藻  
百千鳥  
魚上水  
春雪  
雪向

水解  
長閑  
寒還

水溫  
麗  
佐保姬

暖  
春水

霞  
餘寒

二月

夜更著

二日灸

釋奠

初午

二月堂修法

新能

涅槃會

涅槃像

佛別

雪乃果

嵯峨柱炬

西行忌

聖靈會

菜種御供

彼岸

治聲酒

臘月

春月

春夜

春雨

陽炎

初雷

水口祭

苗代

種下  
燒野  
狗背  
獨活  
菜花  
胡葱  
菊栽  
初花  
椿木  
接木  
引鶴

種芋  
春山  
土筆  
慈姑  
大根花  
葎芳  
彼岸櫻  
松花  
雉子  
引鴨

田打  
春野  
杉菜  
蒲公英  
三葉芥  
蒜  
紅梅  
系櫻  
五加水  
燕雀

畑打  
蕨風  
防風  
荳荳  
野葱  
初櫻  
連翹  
狗杞  
歸雁  
鸞

駒鳥  
此  
蟋  
鹿角落

雀子  
蜂  
蝗  
春駒

鷹化成鳩  
蛙  
飯蛸  
帛鳶

蝶  
田螺  
猫妻戀

三月

上巳  
草餅  
壬生念佛  
東寺御影供  
八十八夜

曲水宴  
汐干  
千本念佛  
峯入  
永日

雞合  
嵯峨念佛  
出代  
花

雞祭  
御身拭  
爐名殘  
櫻

挑藤  
小米花  
沉丁花  
五形花  
茶摘  
鳥入雲  
櫻貝  
行春

梨躑  
木蓮  
長春花  
芽花  
呼子鳥  
櫻鯛  
柳斃  
惜春

海棠  
木瓜花  
李花  
金錢花  
董  
麥鶉  
櫻賊  
若點  
三月盡

款冬  
辛夷  
杏花  
櫻草  
三月菜  
田鼠化鶉  
櫻魚  
暮春

四月

駒鳥

雀子

鷹化成鳩

蝶  
田螺  
貓妻戀

三月

上巳

曲水宴

雞合

雜祭

草餅

沙干

嗟嗚念佛

壬生念佛

千本念佛

御身拭

東寺御影供

峯入

出代

爐名殘

八十八夜

永日

花

櫻

桃  
藤  
小米花  
沉丁花  
五形花  
茶摘  
鳥入雲  
櫻貝  
行春

梨  
躑躅  
木蓮  
長春花  
芽花  
呼子鳥  
櫻鯛  
柳斂  
惜春

海棠  
木瓜花  
李花  
金錢花  
董  
麥鷄  
櫻賊  
若點  
三月盡

款冬  
辛夷  
杏花  
櫻草  
三月菜  
田藏化鷄  
櫻魚  
暮春

四月

更衣

青簾

加茂祭

日吉祭

筑摩祭

千團子

灌佛

夏菴

夏花摘

夏書

夏断

新茶

短夜

青嵐

麥

牡丹

卯花

芍藥

杜若

嬰粟花

蜀葵

風車花

苔花

淡花

美人草

鳶尾

岩藤

玉卷芭蕉

玉卷葛

蓮浮葉

萱臺

露

芋植

蓼

青山栴

柚花

枳殼花

椶桐花

白丁花

桐花

繡毬花

岩梨

殘花

夏木立

木下園

若葉

葉櫻

櫻實

夏草

夏野

夏山

夏川

松居鳥

郭公

松落葉

竹落葉

筍

郭公

老鶯

行ニ子

閑居鳥

蝙蝠

蠶

子子

蚊

蚊帳

紙帳

蚊遣火

松魚

五月

端午

菖蒲

菖蒲葺

菖蒲酒

菖蒲湯

蓬葺

藥玉

粽



柏餅  
加茂競馬  
梅雨  
萱草  
藻花  
夏菊  
柘榴花  
未央柳  
覆盆子  
青梅  
早松茸

飾兜  
蘭湯  
虎雨  
紅粉花  
萍花  
杜鵑花  
盧橘  
紫陽花  
百日紅  
杏子  
茄子

幟  
最勝講  
夏月  
忍草  
金銀花  
榊花  
合歡花  
柳花  
山梔子花  
楊梅  
瓜

印地打  
五月雨  
石菖蒲  
百合花  
真菰  
栗花  
樗  
蠶豆花  
胡桃  
枇杷  
若竹

早苗  
田草取  
蚰蜒  
鴉川  
鹿子  
帷子

田植  
豆植  
蛭  
鶉巢  
照射  
つ下の花

早乙女  
螢  
螻螂  
水鳥巢  
干類

青田  
蝸牛  
水鷄  
小鱒  
夏羽織

六月

冰室  
嘉祥  
土用

水餅  
祇園會  
土用干

一夜酒  
鞍馬竹切  
虫干

富士詣  
半夏  
施米

扇 日傘 暑 涼 心太 夏瘦 蓴 鈎鐘草 綿花 昼顏 毛夷

團扇 雲峰 風薰 葛水 蓮 海松 風蘭 林擒 夕顏 蠅

汗拭 夕立 清水 水賣 澤瀉 蒲穗 鷺草 紫蘊 蟬 蚤

掛香 竹婦人 雨乞 打水 香薰散 河骨 撫子 射干 小豆角 空蟬 燈蛾

夏虫 秋待

御沖 秋給

川狩

秋夕

七月

立秋

初秋

残暑

七夕

鵲

乞巧奠

願糸

立琴

梶葉

硯洗

盂蘭盆

魂祭

棚經

麻木箸

嵐尾草

送火

大文字

妙法火

きりこ

揚灯籠

躍

盆月

生身魂

差鯖

相撲

花火

捨扇

初嵐

秋風

露

柳散

女郎花

蘭

草花

西瓜

早稻

機織

松虫

蜻蛉

朝涼

霧

桐散

男郎花

桔梗

芭蕉

糸瓜

燒禾

蜻蚰

鈴虫

心

冷

稻妻

薺

旋覆花

角刀草

番椒

虫

竈馬

窠虫

秋蟬

身子心

一葉散

木槿

萩

水引草

瓢

生薑

蚕

雷虫

蚯蚓

秋蚊

秋蠅

秋蝶

小鷹狩

鳩吹

八月

八朔

放生會

立待月

有明月

漸寒

初紅葉

紫苑

秋海棠

繪行器

待宵月

居待月

初汐

肌寒

薄

露草

花野

二百十日

名月

卧待月

野分

夜寒

花薄

鬼灯

葛

駒迎

十六夜月

亥中月

朝寒

秋雨

蒟蒻

蓼花

葛

野菊	芋	若煙草	稻穗	鳴子	雁	掠鳥	四十雀	啄木	稻負鳥	渡鳥
鷄頭花	牛房引	蕎麥花	稻刈	添水	鳴	檉鳥	連雀	百舌鳥	菊戴	色鳥
王瓜	木賊刈	葡萄	粟	落水	鷄	翠鳥	目白	鶴鷄	朝鳥	河鹿
秋茄子	藥掘	棉花	案山子	擣衣	鶻	山雀	鷓鴣	白	雁	

太刀魚  
小鰐魚  
沙魚  
鱸  
鹿  
鹿  
鹿

落點  
下寮  
龍田姬

蛇入穴

九月

重陽	菊著綿	寶市	櫻紅乘	銀杏	枳
粟祝	菊合	後名月	梅紅葉	栗	金柑
後雛祭	十日菊	風爐名殘	鳶紅葉	團栗	柚
菊	殘菊	紅乘	鴨脚	柘榴	

梅嫌  
茸狩  
新酒  
雀蛤とろろ  
新綿  
行秋

松露  
未枯  
尾越鴨  
狼獸とろろ  
綿打  
秋夜  
九月盡

松茸  
漆かく  
紅葉あきばら  
綿つむ  
長夜

初茸  
新米  
霜ふり  
網代打  
露時雨  
秋暮

十月

初冬  
連磨忌

神送  
茶口切

玄猪  
爐くわ

射場始  
火燒

火桶  
興福寺

火鉢  
法花會

埋火  
御取越

十夜  
御影講

夷講  
落葉

時雨  
歸花

霜  
茶の花

木枯  
枇杷花

石落花

八手花

冬牡丹

山茶花

冬日

冬夜

冬雨

冬月

冬山

冬川

冬野

冬野

枯柳

枯荷

枯蕨

枯野

冬枯

冬木立

冬籠

冬菊

冬枯

大根引

交時

干菜

莖菜 洗之 衾 志之 霰 雪佛 氷魚 河豚 鶯鶯 木兔 神迎

氷炭 糸衣 脍 雪礫 水鳥 鳴鳥 納豆汁

氷柱 炭電 蒲團 靴 吹雪 海見 千鳥 鶯鶯 鶯子鳴

寒火 捐巾 頭 冥女 雪代 網 鶯鶯 鶯鶯 冬蠅

十月

冬至 袴者 豊の明 里神樂 子燈心 報恩講 芽分柳 凍 獅

顔見世 被之初 五節舞 御火燒 空也忌 禱祭 冬至梅 鐘 鯨

曆賣 漆宮線 髮置 新嘗會 東三條御神樂 吹草祭 子祭 鉢扣 大 師講 三祭西市 於花 室梅 水仙花 葱 雪海苔 鯨 蛎

乾鞋  
雞卵酒  
ととひび

藥喰  
霰酒  
夜興挽

蕎麥湯  
熾  
ゆきゆり

生姜酒  
鷹持

十二月

乙子朔日  
寒入  
寒念佛  
寒紅粉  
臘梅  
追餓

臘八  
寒内  
寒聲  
寒梅  
寒椿  
年越

佛名  
寒月  
寒垢離  
寒紅梅  
年音  
厄い

事始  
寒雨  
すけい  
早梅  
衣配  
於い

鷓頭挿  
餅搗  
年木  
門松立  
除夜

寶舟  
青筵  
松賣  
年市  
大晦日

岡見  
年忘  
兼竹賣  
歲暮  
年内立春

煤拂  
節季候  
羽子板賣  
年籠

辰

十三年

水之 可也

發句題林十二月抄

正月

むつき くらげ月 けしき月

太師月 青湯 蒼天 陽春 東君

王春の月 左傳 詔光 端月 陬月 周礼

孟春 大簇律 夏正

此月としつよまゝに親疎由きむらふ名代名なり

そまゝに名代しむるにまじりて其族の説あり

かたはしむるにまじりてそのもつり約あり

これらむるにまじりてそのもつり約あり



五月廿六日 雨水の音 初昏斗柄寅の  
才也 七月 寅乃月 寅と夏の世に  
正月とて夏正の年中なり

立春

蓮華のまきとくや 伴夢のついで 芭蕉  
陸奥のけしき 霜乃海老 杉風

元日

きこのころ 日だんご  
三ツれあし ありまけ  
たろをうとく ありまけ

元朔の具名ものふせ人 富士の山 宗鑑  
元日や松志月りる 山 蘭更

初庚

山はあけうと白ゆき 電可き  
とく 梅をきき 言水

月を 松のまき 蝶夢

とく 冠中 青橋

初雞

雞のあし 孫も何とん 初うら  
越人

初鴈

鴈のあし 濱名れ 越人

初霞

初霞のまき 死朝れ 跨山

初日

くまのまき 文考

初東風

くまのまき 太田

若水

若水やれちとせのぼく 純 風鈴軒

祇園刺掛 明けの音紙を馬せ祇園は多りの花 夕送

恵方欄 うらふき 萬葉ありたりとて定牙欄 去来

門松 風当れぬぬと志すし 門の雲 防川

大服 大かゝるき年のまゝ茶の白ひ式 流

歯固 人の歯とて令する由衣齒の字成すを流

とをこむ形をさへあかしくひびきむとらん

七ちわんをひびきし事ありをさへ乃身大根を

用ひたりし海海抄かゝり

雑煮 雑煮ふくまをさのひーさう式 御風

鏡餅 鏡餅かゝる日と製うつせのさうりち 子鞠

屠蘇 いそりやとたかめをひく人狂る 荷子

喰積 喰積つや木方ぬぬの積物 伏ふ

年男 年男のさききつゆ道すくまをさく 昌勝

水祝 水祝のさききつゆ道すくまをさく 葵太

初音 初音のさききつゆ道すくまをさく 鴉

若菜始 若菜始のさききつゆ道すくまをさく

志をひし程なり或は寝癖をさへ丹敷路のさく

まゝのさききつゆ道すくまをさく

吉書始 吉書始のさききつゆ道すくまをさく 杜陵

り始 り始のさききつゆ道すくまをさく 五若

万葉始 万葉始のさききつゆ道すくまをさく 清好

富二

船乗露  
松籟  
萬歳  
大黒舞  
猿曳  
鳥追  
破子弓  
羽子板  
手種  
福引

雪をよめや東風を追まのふくま  
一桐子東風よ上よりねをやし  
白福ききけし中土雪り霧野き  
きまらふ大黒舞の末娘の秋  
あけろやよめく積雪を霧扇  
花よりく鳥追といふことあり  
よまらやゆかりのうらやう  
はら梅やむらめ位を庭の音  
柳煙のさう舞やうきまのり  
福引もまのあうむれくや昨

齒分  
梅和  
西李  
菓太  
武仲  
岡更  
泰溪  
風景  
梅里  
雲容  
梧泉

松肉  
子日  
小松  
福壽草  
若菜

福引やうの若の君と井  
上の寅の日勸まきまの  
煙石取看まて上よりを  
く細煙をわろしとふか也  
一はくひ雪もひたり春ねら  
うめくと月夜も方りぬ松肉  
君のこれ松脂くされ子日  
まじりてくしをさのう  
圓り雪やしあつこの色  
くまらむむららまを  
はけんかきくしてくさる

紫暎  
風紫  
梅東  
園文  
儿等  
梅珠  
越人  
曉春

七種 かしらやれまうがれれらるる 其角  
縣召 あらうらうらものまじ國この人さあへん佐友

とまづけらるる候いふ

粥杖 十音 一押し度もぬ形形しあふぬ 莖をた  
ちひひたすまじまて去の事と折らるる事あり

枕草紙 又かゆの事とひひ摺長えうゆけえとあり  
かゆれやまの自侍紙とてうづつ 大江九

小豆粥 ありまも紙草とて今日天狗とまられはてもの  
邪氣と降くと公事根源紙あり

子梅のまられまもあつまらぬ 南義

左義島 九系名也言庭とあつれ野のたつて 有交

藪入 也ふたを拙子の口より口をあらわ 暖臺

著草 ほうまやあつら男とまらるる 葵必

かえ 下もくやう後た匠の紙れ草 布舟

莖立 藤源集二十四番の花はる中を雨巾節と

あり葉をまてとてとと拾遺集とてまらるる

くくくくや老安海坊よりてまらるる 葵太

鶯菜 くとくし葉葉葉も彩えた鳥の形 李雲

落葉 少すのまら葉はりまらるる 完本

芥 せりひひる葉ま葉葉の右根を氣 蝶友

あのみ いろくのまらまらある 東のまら代 和盛

梅

さくらけそ 白ひふ葉玉 白梅 飛梅やし梅  
好文字 嘗宿梅雪の宿と捨遺無くあり

さくらけそ 白ひふ葉玉 白梅 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

梅の香也 山度申の脊片の風呂 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

梅の香也 山度申の脊片の風呂 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

梅の香也 山度申の脊片の風呂 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

梅の香也 山度申の脊片の風呂 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

梅の香也 山度申の脊片の風呂 飛梅やし梅  
梅の香也 山度申の脊片の風呂

柳

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
さし柳 やあだの盤 柳の系 柳 睡

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

海

苔

干

草

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文  
あそびさき 風ん葉川 そのひ葉玉 玉也る文

百千島  
白魚

こころすまはらと息をすれりて  
雪や下結の嵩ふつふ小田の土  
うさぬはよきりて休めん流し本  
うさぬはすや柳はうさぬ花の前  
乃下りの雪ふたつし一升日暮島  
雪はたつらつ海やや信岡寺  
雪ややまをさりしうたふ東山  
うさぬは雪や隣をたふさぬ雪  
ねちちりたりや鳥も雪のこころ  
うさぬは雪ふたつし一升日暮島  
うさぬは雪ふたつし一升日暮島

嵐雲  
凡兆  
智月  
芭蕉  
平砂  
晚香  
閑更  
李雪  
暮角  
青菴

蛤  
魚上氷

たまごりふ明石のやまゆり  
たまごの名をそつらつあ流田志  
月令めま春のそつらつあ流田志  
何魚や氷やのそつらつあ流田志

櫻泉  
湖千  
麦光

懶登魚

まじ日

春風

雲霞のやまをさすまのりうけ  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり  
うさぬは雪ややまをさすまのり

蝶夢  
蕪兵  
源里  
曉臺  
二柳  
閑更

真雪

雪の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香

楚山  
 翠雪  
 曉臺  
 菴太  
 全  
 散庵  
 蒲尺  
 角支  
 曉臺  
 玲芳  
 陶文

淡雪

残雪

雪解

雪間  
氷解

水湿

毒水

體

蒼雪の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香  
 空の香をさへしては其の香

芬々  
 木末  
 修文  
 兼雪  
 葵夫  
 折風  
 香貫  
 曉臺  
 越人

淡雪 残雪 雪解

雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香  
 雪の白の香をさへていざの香

楚山

翠雪

曉臺

菴木

全

散庵

蒲尺

角支

曉臺

珍芳

陶文

雪筒 氷解

水滯 華水

體

雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體  
 雪筒 氷解 水滯 華水 體

芬々

木木

修文

簞笠

葵夫

折風

昏貫

曉臺

越人



長閑  
漂  
暖  
餘寒  
寒還

ゆりくると... 震跡  
藤子と... 済石  
... 閑文  
三井寺の... 英太  
の... おお  
... 龍渚  
... 几十  
... 後川  
... 菊雨  
... 暖甚  
... 一萍

佐保姫

二月

さ... 東籬

きき... 小正月... 花月  
如月 合月 陽中 仲春 夾鐘律

奥義抄... 二月... 命... 命...

二日灸

衣更... 命... 命...

款奠... 二月... 命...

礼記乃王制...

釈尊と莫く先師と礼をとり比喩に釈尊を  
轉業ともつ訓ふを云ふつりともいふなり二月  
八月もまた凡と釈尊と云ふと云ふなり

初午

釈尊也能く人を切すなり  
と云ふなりや法もあつても人の心  
とつてもやねむるを東に宿す  
初午やぬるを神の福むなり  
とつ午は初より杖の末なり  
南都より杖の末なり

百より十四百まで  
出取や火のけしきき僧の教

作者  
い

薪能

やはろ薪やまき青あき足初子

李青

涅槃會

涅槃會と云はまろりくる青物山

曉基

涅槃像

涅槃像一を痛志と云はせと云

末安

佛別

佛をさし花ものいふぬるれなり

白見

ゆき以景

茶とて梅まのともや雪れをえ

仙甫

送城松炸  
十五日なり

梅檀のやゆりたる梅の忌也むふ

蝶夢

西行忌

ねるまきし草も梅も咲きあひ

如泊

聖靈會

そとを掃けりて杖杖へ聖靈を

李虎

菜種炭

神のちを掃けりて花れぬる末

相為

彼岸

片輪もゆき梅も春をりる

園更

釈尊を奠くは師と礼を何の比を釈尊を  
釋尊を奠くは師と礼を何の比を釈尊を  
八月も安かぬと釈奠と云へくまなり

初午

釈奠也祭人をもき切すとも

陽山

く川子や流もあつても人の早急

園文

とつともおろせき東に福音

乃能

初午やぬるは神の福むし

葵太

く初午は初より杖のぬむし

成美

百字書法

南都を何りおを汲たむらと

百より十百まで

出取や火のけりまきき僧の教

作者

治聲酒

紅梅いさめて、新人の入るうか  
社りの酒とのめい年とわきと流すうと  
治聲酒や、高里小野の流丹声  
自來

朧月

おぼろとくねのうらまは月夜りぬ  
其角  
朧月きこもかきれぬ既市をか  
仙花

春月

大原や、蝶のゆき舞あわら月  
成美  
さそや、おりのりもせも人 朧月  
團更

夷夜

其の宵とわらう息あり其のこ  
善町  
其のおおや何るもあれ三橋に於  
曉甚

春雨

其の形やぬいかにたさぬ捨車  
同  
その夜や長樂の寝よ雨とられ  
支考

春の雨や田舎者けさのしらや  
史邦  
曇る雨や、燈の曇つてふ屋根の酒  
芭蕉

不燈のやうき起されし其の雨  
日  
物より死草の寝てくや其のる  
荆口

春雨や、梢々ふりてくれぬ  
瓜坊  
らんるや、今のももさる舞う形し  
百枝  
るるるの春とらばはらへんるの雨  
曉甚

治聲酒

紅梅はさめてしむ人の入るうか 大江丸  
社より酒とのあは年とをきと作するとい

朧月

治聲酒や高里小野の鐘声 自來  
おぼろとくねのころまは月夜角  
朧月まことおぼろぬ既中か  
仙花

春月

大原や襟の中を舞あはる月 丈艸  
さそやあつりりおれせん 成美  
其の青き藤ぬをあはる月 團更  
大原まはるはらけし 暁基

亥夜

山の煙とちのりる息あり 暁基  
其のおや何るもあはる朧月 暁基

春雨

其の夜やぬるかたにぬれ捨車 同  
そのの夜や長樂の鐘よりとれ 菖  
さきさきの花をたふさくころ 支考

春雨や田舎者おのころや 史邦  
曇るおや花の葉つゝふ屋根の海 芭蕉  
おぼろやうき起されし 其の雨 日  
おぼろはさきの鐘とくも 其の雨 荆口

春雨や梅々あはるをれうれ 瓜坊  
らるるや今の心もさる鐘とれし 百枝  
あはるの暮とあはるの人のあはるの雨 暁基



枳殼

土筆

杉葉  
防風  
獨活  
葱姑

大系あむむむむひうへうあさむし流成  
 めんまの二層さるるさくわくむ成  
 めんまのやまききき行あるさありの  
 えてはまれ 土のぬく  
 ささくくくくわやはまやけりく  
 青けあしるや清くしの長くしの  
 二方とをすあくくもら杉葉れ  
 けり風やさるる徳島の候あをむ  
 日の影に櫛の抽ぬるさあむ  
 山の僧部のふくやうくく自ふ  
 抄子のい田探ありをさくくあむ

使舩  
嵐音  
牛母  
其角  
園指  
素菊  
守溪  
一桐  
英口  
五舎

薔薇英

薊

菜の葉

大根花

三葉芥

荳

胡葱

菘

蒜

野葱

ふんやあやうりかうりくは拍子  
 伸より 鬼持りしうきあがむれ  
 存のむくくのとをきたわらうり外  
 葉はそよそよはるるあまつみうそ  
 麦飯千大根のふくあうりそと  
 あらうりむし今をかあさむし門と春  
 くくくくくくくくくくくくくくく  
 あらうりむしむしあうりくくくくく  
 けまくやんけくのあまそむし自  
 かん少くやあまそむしけりあ風  
 海根くやあまそむしあまの甲をさるる

南唐  
李完  
葵太  
恭教  
雨柳  
碧士  
梅  
土若  
支葉

粉齋

土筆

杉菜  
防風  
獨活

慈姑

大系あまむきさひくくおきく流次  
おんまへの塵子えくくゆくむ次  
せんまのやまきくきけあるくありの  
あてはま丸 土の母く

まきくくくつむやほまきやけのくし  
膏けあくくやほくくの長くくし  
二りくくをちふくくもく杉菜丸  
ゆく風やふるは徳島の溪あをむ  
日の影子楳の抽虫くく堂あむ  
中山の信都のふくやうくく自ふ  
捨子の川田探ありなるとくくあむ

史航  
嵐雪  
牛母

其角  
園指  
素菊  
守溪  
一桐  
黄口  
五舎



菊うら ともきよのしき梅さ日冬さく此酒  
 草芳 柳とをかりし武人の家落つれ  
 紅梅 赤梅や紫梅日乃中 二日  
 幼梅 さく梅やさく梅のさく梅のさく  
 左内志 きのさく日冬さくは志はく梅  
 破巻梅 けつふそ梅さくは日冬さく山  
 いささ ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 連翹 告人む針のさくはく梅さ日冬さく山  
 ほろろ ともきよのしき梅さ日冬さく山

松のふ ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 五加木 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 芍薬 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 接木 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 雑子 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 いんぎょ ともきよのしき梅さ日冬さく山

野坡 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 若川 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 奴比女 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 吾同 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 一徽 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 菊後 ともきよのしき梅さ日冬さく山

目のは乃敷うら 梅や梅さ日冬さく山  
 地うらあさく梅さ日冬さく山  
 素外 ともきよのしき梅さ日冬さく山  
 花藍 ともきよのしき梅さ日冬さく山

燕

雁

引鶴

雲雀

鸞

雀子

蝶

蟬

加うらたねむしはちやうやけ子のち  
 けうくやけ路若波とつまじや  
 ちやうやけ不業をくま燕  
 ちやうやけ一雁とねんくまのれ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけ千代とくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ

取我  
 超波  
 寶馬  
 素道  
 碧章  
 甚色  
 九垂  
 杉風  
 素堂  
 公泉  
 曉甚

朔月とくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ  
 ちやうやけくまのちやうやけ

素云  
 鸞喬  
 分洲  
 英枝  
 其角  
 素外  
 宗因  
 松清  
 木舟  
 吐月  
 巨井

田螺

蛇飯

猫の食

糠

春駒  
鹿角菜

山々の緑をまらぬ  
田中へやまの湯  
川の根れり  
心は晴や  
まのふや  
さき  
新居  
やけ  
るか  
この寺  
外撃

花笠  
箕  
蒲  
竹  
支  
百  
蓼  
茨  
梨  
旬

帝考

夕暮の月  
花  
切風  
中  
紅

恭  
太  
示  
桐

三月

やよひ

季春

世間

と

中

毎  
姑洗律  
清明節  
月  
月

竹秋

竹  
中

上巳 上巳の三日は因山に因の世にてふりて三月五日  
みよき終に魏の事なると事文類聚にみよきなり

志し流のむたも西よりくそりふ 雑口

曲水宴 春日も周代をさるゝと云ふやゆりもよ

ひりふ山前まゝ 詩と作らるは構中より置とるゝ

多文人等ゆふと敷ふ下り成へるの根原み地より

曲あや雑掌ものそく 伊呂波歌 念 盛

雑令 唐の明皇清明の帝と國雑の歌とゆふ也

一 年あり本朔乃 魏令を朱雀院の天慶之年二月

習十番のちやとあやたりし古ま書にふりて

鶏あやせせふをさるは舞とされ 素外

### 雑糸

かろま乃 梓をいつきう花の雑 其角

魏ののちをさるやわり方まゝ方 霞基

日とあやせふあやせふを朱の魏の 也宥

身をさるあやせよ二八乃 魏ののち 花藍

三言言はあやせも 雑を名月夜のか 蓼太

踏をさる青をさるゝとさるゝも 古柳

汐手 雲柳の泥をさるゝとさるゝも 古松

帯はさるゝ川のちやとあやせふ 治修

三月のちやとあやせふ 雨更

ひりまゝ二人あやせふ 五風

ちやとあやせふとあやせふとあやせふ 翠羅

やまのむすもろを登夫木集りて藤山ありけり  
はるあまのむすもろを登てみろのむすもろ

あまのむすもろを登てみろのむすもろ  
若出

まじり念佛 十四日あり廿四日迄の言あり。猿。赤ぬき人  
重厚

なげとも。爛麩。あまのれ。かたごころろく。湯がきり  
宇竺

千本念佛 並日賢象さうやと念佛乃むき  
翠室

嵯峨念佛 廿日とせまきさうやと念佛乃大念佛  
泉之

東寺御影供廿日 弘法大師入定の日乃法多なり

峯人 御影供併匠務とこころ中々  
瓦人  
出ろり 出ろりやあまのれ後さりのあまのれ  
仙鳳  
お代やあり控動の加帳  
許六  
てろりの中やあまのれ  
也有

爐のあまのれ 爐あまのれや 堺をちり糸京昆布  
松下

八十後 六十とせまきさうやと念佛乃  
釜下  
あまのれ あまのれお油念のあまのれ  
釜水  
持繼廿日とせまきさうやと念佛乃  
夢太

たうき日や由りあゆまなるあま 二 放  
花 花の香花の香花の香と云むの波花の嘆  
てふの衣 花の香と云むの魚花の香の  
淡花をさむひら花の珍むらう死乃をさ  
とほの盃に化ひらう花のあや

志す人あやうくとむ刃の肌 去来  
のふらぬ教はらうあしむさの里 葵大  
骨よりか細も移るひ花むの陰 吐月  
鳥山や波のくもさる花さう架 孫川  
はちと喰一日柔乃を食ふ都 生菜  
花の露を小くを侍よむの中 花藍

楊 舞ころはき楊 家楊 庭さうらおふこ後

さうら人 何うう戸楊 ちと 大さうらや并楊 遊楊  
人九楊 楊妻妃楊 西り楊 普賢象 太山府君  
千のふ楊 いせさうら 江戸楊 まりこやら ひささうら  
少り心楊 一はらま あさき楊 墨陳楊 うら尾  
若身見 系 菖玉吉重楊 日あけわの東 日うこく 一日  
をささうら 唐あうら 日あけの 日あけの 日あけの 日あけの 御筆  
日あけの

本あけのふけを介さる心楊 こる京 へをひ  
さうら 慶幸山とち花楊 遊さうら 歸 慶友  
浮山本あけのさうらやら家の田舎 住 徳元

とくちあひささう一きよまくふか  
 ありや夕山山く灯のほろを  
 野中さうさつりおきれ 拾 柴 燭  
 山さうさうはくはさるる 幸 重 氏  
 夕さうせやさう 舟 魚 丸 又 内 山 之  
 友さうさうはくさうさうさうさう  
 船さうさうさう 野 原 一 也 由 上 様  
 宜 麦  
 去 来  
 雲 第  
 園 更  
 星 布  
 百 萬  
 吐 月  
 其 角

葛城の藤をさうさう

程さうさう 妙才明の神の教

左殿のいあさひ

小坂さやねさうさうさうさう 其角

挑 ひり 姫桃堀河次郎百首 毛桃の花万葉三巻 草葉玉

花さうさう飛や三言 森枝の脇はく 其角

梅さうさう中さうさうさうさうさう 飛さうさう 其角

梨の花 ありさうさうや縁子のあはさうさうさう 其角

山梨さうさう郡のさうさうさうさう 貞里

海棠 海常やさうさうさうさうさう 依子

数冬さうさうさうさうさうさうさう 依子

今山吹と字公月さうさうさうさう 依子

藤

躑躅

木瓜花  
こふー  
あふ花  
木蓮花

山吹や花ふくまゆく魚とあり 園更  
 梅をくま岸の山吹色子よま 百萬  
 少ちふく花ふくまゆく魚とあり 園更  
 其花自子花ふくまゆく魚とあり 園更  
 日乃園吹くまゆく魚とあり 園更  
 こふーの樹屋一見ふつーの分  
 焼のふくまゆく魚とあり 園更  
 内くまゆく魚とあり 園更  
 庭りせふくまゆく魚とあり 園更  
 放ふの梅其さいーのくまゆく魚とあり 園更

存義  
花籃  
希圖  
其角  
文芸  
央布  
津宜  
芦英

李の花  
杏の花  
沈丁花  
長春花  
金銀花  
さくら  
梅  
茅草  
さくら

請をむまゆく魚とあり 園更  
 かまゆく魚とあり 園更  
 沈丁花ふくまゆく魚とあり 園更  
 とまゆく魚とあり 園更  
 寫人ふくまゆく魚とあり 園更  
 百名神りふくまゆく魚とあり 園更  
 聖一ふくまゆく魚とあり 園更  
 山鏡ふくまゆく魚とあり 園更  
 三月をまゆく魚とあり 園更

種收  
呂山  
李克  
枝悠  
桐子  
樗志  
紫紅  
花月  
花簾  
以月  
閑之



茶法  
 菓子  
 交う  
 雲化  
 雲  
 櫻  
 鯛  
 さ  
 揚  
 さ  
 舟  
 舟

茶の女や人の死後八十九と云  
 うる流人後人より一原と云と云  
 妻の姓を志してせよ小野と云  
 化してはうと云と云と云と云  
 名のと人に入ると云と云と云  
 薄しと云と云の云と云と云と云  
 飲と云と云と云と云と云と云  
 おりてと云と云と云と云と云  
 破きと云と云と云と云と云と云  
 其のたのみのと云と云と云と云  
 こつと云と云と云と云と云と云

素外  
 鬼谷  
 杜良  
 可候  
 如流  
 意相  
 他者  
 秋航  
 成里  
 松栗  
 花籃

暮春

行春

若難の小太刀洗ふと云と云と云  
 大和路也と云と云と云と云と云  
 元腹乃と云と云と云と云と云と云  
 体と云と云と云と云と云と云と云  
 伐と云と云と云と云と云と云と云  
 さと云と云と云と云と云と云と云  
 ゆと云と云と云と云と云と云と云  
 と云と云と云と云と云と云と云  
 ひと云と云と云と云と云と云と云  
 着と云と云と云と云と云と云と云  
 行善やと云と云と云と云と云と云

暮春  
 完来  
 杜由  
 輕舟  
 園更  
 素外  
 暮太  
 曉臺  
 也  
 花藍  
 蝶醉

惜春

花鳥みまゝのさきの三月の

姿二

雲湖水惜春

ゆくまを近づけんとし

とる

三月盡

於て花を白酒うまれを

其角馬吹

暮春

Handwritten text in cursive script, likely a poem or commentary related to the '暮春' (Late Spring) section.

發句題林十二月抄

笈之部

四月

うつふ卯を月花玉正陽の月書言技事

首夏 孟夏 余月 中呂 律 乾月

花の三月月とこ六月は月とくまこと之は甲の花  
月とのふを思ひつたり

更衣

塩魚さくうう干月なを衣うへ 嵐雪

たぬもくくくくく織ぬ羅子こー 園女  
松むくく出のけいこくくくくくく 蓼太

是くは住まきとくく乳の給ふれ ね義  
 吹之也馬上ゆーとさあそふ 夷東  
 此子風流うめくしきよ衣 公曳  
 青き光 あさるしこれものぬるさよ 喜一  
 加茂祭 中酉日 上加茂の如茂友結のまりのりてゆか  
 の日とみ入今日人々交るる乃も流るる成かろす於ゆん  
 不あひまるといふ只祭とわりゆかひあはと  
 首とらふ二葉つあさ茂河あひりな 魚潜  
 日吉祭 中申日 江召山王祭あり大宮 聖真子 一宮  
 八王子 客人十禅師三宮以上 七狂の神樂船

高きとくまわりかきまを供奉かひ事なり  
 沙林やゆき中り青あき 佐ん  
 うのせを澄す日より代あられ 吳南  
 筑磨祭 一日或午の日とくまの種まきするもあきさる男  
 乃殺やと襦袢つてく成と女のまを殺すとわり  
 灌佛 八日 佛生會 新花を 佐ん  
 とり諸寺に斎をゆけ五香のあきとまらる佛  
 浴とて竜花舎をなるとく歳時記ふとてり  
 翌於泉家ま川中とつてさる事 吟月  
 灌佛や樹下石とさるまむ事 素磨

くらん佛や末はまゝく長松投 花苞  
佛日まゝ迦葉え来りてはらう子 支峯

千園子十六日二井寺の鬼子母神まつり

てとあり 夫人ご子の教供まゝゆゑくつて

あつて西をこゝにゆゑまゝや 千園子 一 洋

夏らり 夏ありの如く増えたりまゝ谷の坊 公曳

夏書 酒断とてゆゑまゝや 貝山

夏らり 酒断とてゆゑまゝや 貝山

夏花結 茶とてゆゑまゝや 墨鬼

新茶 茶とてゆゑまゝや 雷風

やう夜 茶とてゆゑまゝや 嵐雪

夏の後や蚊を振うとて五百両  
てとあり 夏ありの如く増えたりまゝ谷の坊  
てとあり 夫人ご子の教供まゝゆゑくつて

梅ゆふく西風の音もまゝや 花籃

あつて西をこゝにゆゑまゝや 格御

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

まゝや 酒断とてゆゑまゝや 寒太

麥

饅頭とてゆゑまゝや

青箱

牡丹

夕暮を月風吐生後をく入るふ  
西東門跡さぬ志何く入る飛  
くもあつく飛舞くもさる牡丹哉  
えをやうやう静かきまはわくふ  
奥さぬ志お樂にそよ牡丹かな  
沖の志如くく成極ふおひこし  
うれおのきさるおれうへ園志門  
舟の志すあふげの舟の志おき  
そよまじとをる沖の志乃はうり  
うけ花や門田垣根志片月 秋  
舟の志すくく志て揺れまじり 曰

超波 許六 雲裡 曉世 花籃 志の成 去来 許六 山笑 百菊 津翠

知の糸

芍薬

かきろ

けしき

蜀葵 鳳皇花

百菊や日つを成の志を種定夫  
まじくとも志志まを成つやうふ  
田志すくぬる志くくやうあつ  
そより志の志くく志かまはる  
おれ志志志志志の志志志志志  
青き志志志志志の志志志志志  
曉く志志志志志の志志志志志  
散る志志志志志の志志志志志  
白芥子志志志志志の志志志志志  
まじく志志志志志の志志志志志  
雲の糸帯志志志志志の志志志志志

英子 薛亭 超波 皎玉 柳居 嵐雨 花籃 寛藤 琴太 鳥奴 木爐

若花の花  
心くは  
美人州  
老々金  
山名藤  
玉春色  
花を葛  
蓮花葉  
花の葉  
花の枝

かろの身徳の庭や  
花の心くは  
美人州  
老々金  
山名藤  
玉春色  
花を葛  
蓮花葉  
花の葉  
花の枝

如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷

青山椒  
花袖  
松花  
松花  
白丁花  
白丁花  
白丁花  
白丁花  
白丁花  
白丁花

目の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは  
花の心くは

如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷  
如雷

苔の花  
雪の松  
美人竹  
老松  
山石藤  
玉巻芭蕉  
玉巻葛  
道徳桑  
菅の葉  
つばき

たろの身境の庭や  
おののこ  
雪の松  
美人竹  
老松  
山石藤  
玉巻芭蕉  
玉巻葛  
道徳桑  
菅の葉  
つばき  
計のあふこ

如雷  
却夕  
風逸  
綾堤  
筑峯  
梅斜  
菊谿  
沙月  
招花  
挑五  
睡基

ちりし帆のうらとさ入り交り交本立  
ぬきん指し杉二むぬちま本より  
ひさしく旅立道とのうらふあしあき  
まはささけ旅ましゝせ色ワらふ山  
寺のまことち旅をさうう千を旅あし  
尺をさう旅あふも紅紫とまうとちれ  
禪まくとくさほろを秋若葉す旅  
柔まことくや又行を旅しあまことま  
とけくさとなりともも旅あふとけけい  
其の候きちれ青あきとを旅し山  
あまをち風あきまをさううあまゆさ

成養 境長 加風 祖亮 高氏 花藍 曉香 机交 宗瑞 杜友

木下園  
五系

柔まことく

其車

其野

其山

其川

其

竹系葉 井の系 菊

其車乃さう心と 勝一 蛇乃衣  
枯色まをまをまをまをまを  
大雪も新淨さうく 其乃や路  
な河山や糧も虫を柱せんぐれ  
谷河やまを路もまをまを 標 送

花藍 生林 嫗史 東川 園文

常盤木の初まうふおちや辰る中

漸

風けくくくまつのみ松あちぬけゆか

妻諒

井の系で奴さ守の澄らりやまう

素柳

ふり人をたうらなり

うけの名を稚まうら乃終のすま

とる成



竹の子や児の齒と夫のくらくしき  
 去未  
 寺の氏子や白鳥とやアヤ悪太郎  
 極仿  
 古書やとどけの子と丸のてらまき  
 花籃  
 竹をさうりううれを文政後理はア  
 白歌  
 多分の子や春は所んえちうくさ  
 貫至  
 舟の子やもくはぬれしと係り  
 鄭公 志のくさき 山やきまは初回とまはくさ  
 ときのとと 子従 蜀魂 社宇 社鶴 不知 歸  
 宗因  
 はくまきまのめ鬼神とたはくまき  
 名公  
 聖を標とさうりむけてやまき  
 丈艸  
 やまきまはなかくやめはのまきま

燈籠と或と鳴や木のる北角 樽  
 史邦  
 燈籠のやまき 燈籠をうけとまき  
 杉風  
 寄かきとふくまき人うなやまき  
 月  
 やまきまは月のまきまは月  
 野坡  
 さくまの月まきまは月  
 其二子  
 中と祭は一二の樽を北角の非  
 其角  
 郭公とまきま 多くとまきま  
 海魚  
 まま川鳴く泥をまきま  
 樓川  
 産所の訪うくく月やまきま  
 春來  
 小僧まきはまきまをまきま  
 存義  
 探幽の心はまきま ほんまきま  
 米仲

子けぢやほへんそつ子 郭公  
わさしはひらき種く傘を足さる  
わさしはひらき種く傘を足さる  
待意無女を思ふお預や  
凡あまふこつ虫さり花海  
おちよを涼治志好あし  
吾とよれ取之りの上ほ如  
あのおとらおれを此夜 時  
日りかきあやうき月を  
ほくまを味あきつれり  
山ほほか辰川志あお中

其年 吐月 花臺 輕舟 寛濶 早布 巢外 閑更 吟松

老号 行子 又号 蝙蝠

子子 蚊帳 帟帳

うらむとや牛の子若く老と  
さうらむとや牛の子若く老と  
困子鳥も種も無しの飛り  
若虫のわくあまありうん  
かたむきやけおの湯とや  
うらむとや牛の子若く老と  
這いぞり月すの初や  
初とちや蚊帳たをさう  
旅人やあつき方蚊のり  
なうらむとや牛の子若く老と

学琴や絃柱不二偈 子  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と  
なうらむとや牛の子若く老と

名成 也有 素林 白歌 存義 花藍 綺石 祖亞 作去 垂虹 互来

蚊遣火

かやま火やのやのたろ子老中し

若松

松魚

松魚の火やあふり

寸江

よし鯛を釣らぬ秋もは旬かたを  
はふ松千重の秋の昔やその鯉  
この松魚の是賣ともや伊達源長  
松里の松片身くもさる初うらを

佳風 春米 杏羅 左藤

五月

五月の月名ぬきと悉橋月早苗月仲夏臯月  
蕪賓律の月をらつ良といふ六三之月松略して三より

雨の啼きもままかたさるる松 完来

端午

端午とをまかたさるる松

五月八年の月少端午とあしけの五月といふ

菖蒲

あまのたあやあや軒まもるれ  
家より賣の松林やのまあやめ  
五月まもるる松

園更 祇臣 桃隣

あやの膏

きのくはし 焼く松根や丈あや失

曉臺

菖蒲酒

菖蒲の酒を飲む松

其角 律翠

菖蒲湯

菖蒲の湯を飲む松

氷花

よりのて

菖蒲の葉を飲む松

松太 曉臺

薬玉 くらりのおさめは玉世縁向若くは玉の

諸病ありてふ世を成五色乃糸りく細ひくひらり

うらむ下悪く氣と拂ふ夫本集は世の世を成りて

心もさへけりけりけりけりけりけりけりけり

くらむやわのにやわが夜抄をくらむ夜抄

茶のやま山多帳へ入る一茶 清泉

稼 世縁向若くは玉世縁向若くは玉の

とわ 伴勢物語拾遺和歌集あふらからまの

文のやわのやわのやわのやわのやわのやわ

柏餅 意うこれのやまも月やかきくくら 花藍

おれはよふかたさすりるよれり 柏餅の 意を左

やうん 迎さるけ迎ひり 崇吉老成まろをさるん

よ月夜遊事そたをけりてそを信りて甲冑むを

とくの煎旗をさるけりてそを信りて甲冑むを

懺 かつくやそくのやまの 百人 平砂

のやまの 勢を白まをさるけり 出車

沙加勢はまのよふのふののりか 花藍

印地打 顔面まをさるけりてそを信りて甲冑むを

加茂鎌馬 音くくまの馬 赤方里方と名をさるけり

林の終り落きりてそを信りて甲冑むを 浅里 翠麓うけりてそを信りて甲冑むを 意を左

藥玉　くまりの玉　さひまは玉　世説同昔は玉曰玉り

諸病ありてふさぎ多成五色乃糸りく　細くくひらり

うり下悪く氣と拂ふと夫木集たさきの玉とてはつり

心もさるはさるけくさるくも中さ玉なりけりてさきの目と云

くまの玉やふのいりや　夜抑

さるさるや山を帳へ入者　清泉

糒　世説同春原楚の屈原泪羅丹泥ととあるふり

とわり　伴勢物語拾遺和歌集ふりかきりらるる

文のり　ワ　糒　五　把　岑　雪

面白或實をむと花とふらるる式　花　藍

柏餅　葉うくれの五百丸目やか　花　藍

蘭湯 吾蘭公々々々々湯わささささ大敷れささ

一より今世の昔蒲湯より世博古の家ゆき 涼体

最勝講 東大寺奥福寺延暦寺園城寺四の六寺

乃ら蘭一の傍とえさささ講降ささ清涼殿と

最勝講を講ささ公事根源ささささ

夏寺合さささのささりとあささささ

はさささのりささささささささ 乙由

さささ被早田園小馬の舞義やささ武五 表来

山さささつり敷きさささ五月雨 系仲

はささささつり青さささささ 渭北

五月雨や 踵とささ種ぬ破つて飛 治園

あ舟衣水のの印人やささつ貴あり 表来

かさささささささささささささ 表来

ささささささささささささささ 表来

五月雨ささささささささささ 瑞川

五月雨ささささささささささ 清泉

松ささささささささささささ 百葉

はささささささささささささ 起波

文車やささささささささささ 曉春

降中ささささささささささ 春坐

梅雨

古寺にやもれもささりし月日  
花盛 押むら恋しき夏やさば身雨  
津翠 連示 東之

七 妓婦とて世前のおもて成しとけ月海と虎洞雨とを  
古能女

夏の月

野山をら市ありれたる友と月  
花並 李 咲  
等し恋ありあつるの月 夏の月

石菖蒲

せせ常よあはれと多りや囲まら女

李紅

紅花

思ひ日や捨てられぬ屋に留

李紅

百合花

鬼と群け非とあはれさやゆり花

冬 花

藤の花

つりあをく丸れおのそく流る花

九 花

金銀花

かすみと花とすの秋葉も葉葉山

乙 花

夏菊

かすみと花とすの秋葉も葉葉山

帆 涼

杜松花

花の葉やほしくふるる作り 涼

花 涼

柿の花 甘くは 柿の蜜らしき門迄は

今の人を思ふついで母や朝の粟

石福花 花より後おのつ初を中候かくし

盧橘 夏の性たぬとそとよりなりて夏の

象限は西や西施の合歡乃其

虹の根とくは此年の標く柿

赤夾花 唐垣を赤夾の甘きはるりと

紫陽花 あらさめは空りの心を市忠孝

牡丹花 四重より人さるは花と枝のほろ

此の空 牽繩草す彩そく空や付は

覆盆子 山と空花をわらわら心ちこの実

春造

うせ

湖笠

回賀

くせ

純志

香崔

吐月

巴走

蓮翁

珠英

百日紅

山梔子

胡桃

青委

杏子

揚梅

枇杷

早松

茄子

夏書より日教ありて百日紅

ひかりは実を其の根修くそ

台をく人まの門を青くそ

ひかりは実を其の根修くそ

かきやをく三代は秋

山栂の人よやまより丸礫の

追ふやむらふ葉を首友す免

まの草ゆき我のしりし

むよりもせしは柿の初りす

文子

輕雨

如右

左琴

玉圃

出鹿

素林

似竹

魯白

葉氏



瓜

善竹

早苗  
田植

早乙女

青田

田取

豆植

ほろ

瓜瓶を温まると巾着六瓜  
 庵丁は筋自さしや瓜の皮  
 実を花の芯は葉巻や瓜を汁  
 ね病まよふもくま瓜皮土  
 まう井やふり落れ一日月  
 紅く沈む彩や魚つとふく井  
 善竹やちよとのゆき庫裏の窓  
 七賢も青れさ低くやう井  
 吹や早苗日少く風をそそる  
 手ふそと林のまもりとさふり  
 あるる人乃ま信ふ田植瓜  
 花藍  
 素違  
 花藍  
 紅  
 翠  
 曲  
 醉  
 我  
 夫  
 玄  
 夫  
 乙  
 由  
 五  
 朋  
 百  
 萬  
 七  
 成

早乙女はけれとら出るお野  
 早乙女や梅仲すおまの味はる  
 糸の自とささしよふと秋ま田  
 草をよみ青中竹と瓜植る  
 豆植るあれとま茶や鳩さる  
 むるる人も紅改酔さるおほつる  
 膏のちあまやとた野のほろる  
 火のあの相性よとさるをそれ  
 石川まほろるやほろる何と  
 翠性お秋まふや茶をそれ  
 通園う秋ゆふはくまほろる  
 百  
 萬  
 吟  
 風  
 水  
 鏡  
 蝶  
 髪  
 花  
 藍  
 望  
 一  
 買  
 明  
 白  
 頭  
 起  
 波

蝸牛 蛸 蛸 蛸 蛸  
蛸 蛸 蛸 蛸 蛸

鴉 鴉 鴉 鴉 鴉

運生乃らるはまじやからるる  
書るはれ夢いりらるる  
蜂の蜂ままの芥らるる  
幾と心は怪乃らるる  
疾のまると母はらるる  
何んれを扱るなりらるる  
あつたれを痛も泣け中らるる  
わりはらるる中らるる  
体む鴉乃神まらるる  
陶子母徳ハゆらるる  
同くもいりるる  
白歌  
兆幸  
佳夕  
挑牛  
其角  
吐月  
晋文  
魯文  
吐風  
花藍  
國文

揚巢 水鳥巢 小 鹿子 照射

烟のいもろぬ教をうつらの菜  
お風や魚の血を風をまらるる  
夕あらもをこるるの旅のり  
はらるるやもやらるる  
少事さす ころを負徳まとり  
ふらるるはらるる  
麻そのまを貝は足金を  
とくその将人の中らるる  
志江  
大江丸  
夢太  
季吟

干 夏羽織

あつたるはらるる  
けし細もあつたる  
うららるる  
閑更  
作  
寒太

帷子 うつむしの類ひせり 綾五目 支考  
 松永氏のふけど花と付くがむしりて  
 暑くてもききかむしりては花と付くがむしりて  
 是の類ひは山室の奥やけるふ 同山

六月

五月のま 風待月 五月なり月 とくさ月月  
 林鐘律 季夏 且月 陽氷 此月紙のみなげきと  
 いふ也 六月の略なりとす 又五月押し早者の  
 まりきとてなりては紙とすもいふが加茂の  
 まりきとてなりては紙とすもいふが加茂の

氷室

松永氏云氷室は氷の四月終りより九月まで  
 教を新りのかれとも六月朔日紙肝要とすゆ  
 今日と定まると云 四月献りては延喜式主水が  
 あり熱月をまてては膳すも氷を用紙心のおも  
 とのふまぬり保氏常夏に巻く氷ちりすとあ  
 千載集よ氷室山ちりてとて巻くありけは  
 昔俗にこまの解と氷と巻て一日の用紙あり  
 此のふまぬりふむむらふらふら

氷餅 一夜酒

雪ちりては紙規りて水ちり  
 門おの終りかりぬ一夜酒  
 同山 杜音

富貴詰

嘉祥

祇園寺

天竺のたぐく探ぐんふ二指

茶の癖も月のりらり嘉祥喰

ふふふの陰さきふふふふれ

傘洋也日思通方未かくら

宵山也入目さゆふ廣中一美

竹きり古近江丹波のふく刀

井のふも志行むもや半夏生

カクもム土用ふささ一社の凡

之夜のひり一葉のや土用干

土用なし今をいれす志やふれ

むく干也土用く木の交順たの貝

園更

蓼太

雨橋

茶介

牧羊

故艸

夜扣

雨融

鳥晚

浦山

虫干

施米

扇

團扇

汗拭  
掛香

赤山雲山山家のたつふ形姿はゆきふ

茶漬飯ありやけとらゆきふふふふふふふふふふ

赤あけとむとむとむとむとむとむとむとむとむと

和何さきのあふとととととととととととととととと

むらさきとむとむとむとむとむとむとむとむとむと

はるあけとむとむとむとむとむとむとむとむとむと

むとむとむとむとむとむとむとむとむとむとむと

あふ山園扇白粉ぬけし二ありと

掃側ふ宵のふとむとむとむとむとむとむとむと

あふふかしてほほほ汗ぬき心  
あけ香や花ち散里といふ荷

荷分

几董

黒は

菊二

杉風

世忌

御風

幽篁

菅

日傘

簞

笠

竹婦人

暑

重厚

さあめく八坂坂下から日さする  
はる形より夏麻の甚やあむむ  
かまやうとくまやうとくまやう  
七角もこころもいも竹婦人  
傍ふ人の影もさつこあつたれ  
かまよおまを雨をりくは日さす  
あまやのやうそのふかこす  
桐さくまのふささくあまや  
大津繪より丹のすはるあまや  
のほく人と時あく敷あまや  
まのたれ今のは敷あまや

子晋

冬身

蓼太

鶉口

字相

青牛

大江丸

蓼太

佛舟

之道

夕立

雨乞  
納凍

中くまをなすあまやれ  
その夏傘あけあむむあり  
ゆきや蓮一枚のまあま  
白雨よりあまやれ日傘  
夕立や中房よりあまやれ  
ゆきやあまやれあまやれ  
松島もあまやれあまやれ  
夕立やあまやれあまやれ  
あまやれあまやれあまやれ  
あまやれあまやれあまやれ  
あまやれあまやれあまやれ

重厚

野水

嵐臺

拙候

正秀

蓼太

白麻

成美

紫芝

野坡

去来

風薫 清水 打水 心太 葛水 鹿賣 香露散 夏瘦

草の葉や柳をさしとく文をさし  
夕の影をさしとく文をさし  
風をさし甲や子尋をさし舟の奥  
岩をかきけりさしとく借ひしとく  
さしとく麻おのすし桶の上  
打みの石をさしとく四角月  
松の葉をさしとくひさびさ  
葛水やさしとく鹿鹿をさしとく  
あささや桶をさしとく  
水のさしぬ東願礼や香露散  
夏もせぬぬを飛のけりさしとく

葵を  
松更  
風宿  
也有  
宗後  
長川  
几莖  
冷氷  
冷浪  
如志

蓮 河骨 葛 海老 蒲穂 梅子 飲徒 風蘭 葵葉 射干

ほよあさや葉をさしとく  
おささや池をさしとく  
河骨のさしとくおさしとく  
松の葉をさしとくひさびさ  
葛水やさしとく鹿鹿をさしとく  
あささや桶をさしとく  
水のさしぬ東願礼や香露散  
夏もせぬぬを飛のけりさしとく

園史  
志江  
孤松  
若骨  
空有  
古柳  
枝条  
一徹  
雀史  
有節  
一羽

綿花  
 林檎  
 紫蘇  
 さけ  
 夕糸  
 空蝉

夏の花と多く、南に似たり。其の  
 楊子花の爪を、そのうまを、  
 志すの多し。其の色は、白く、  
 初なるを生、秋に、  
 夕糸、秋の、  
 やうな、  
 補心、  
 うはせ、

素堂  
 青楓  
 鼓勢  
 卦士  
 建宥  
 越人  
 暁雲  
 昌黎  
 道肥

毛蟲  
 蠅  
 蚤  
 燈蛾  
 夏虫  
 仲鱈  
 川鱈  
 秋近  
 煉侍  
 待

藤りて毛の、  
 み、  
 火、  
 川、  
 夕、  
 煉、  
 待、

終六  
 木葉  
 白砂  
 糺友  
 末桂  
 風馬  
 五浮  
 呂風  
 形代川社立半

ひつる一宮をもくく山を登りてく松としし  
侍の河よりそ狩をえんけさるわづえをそ成  
るそもあささのほくもそり麻の枝をさうて  
めさるて枝の肉急麻と枝草もゆきそ

すくさくあささのけしなそりそり  
大瓦丸 燭去

近アけと五千半あかそりそり  
末之

弟の輪のそ枝まそりそり  
秋瓜

底見そりそり  
早希

えらかきそりそりの場と秋瓜  
葵大

### 七月

あささのそりそり  
七月一日 端午節

七月二日 蟠月 孟秋 初秋 夷削 拜瀬月

あささの月とあささの月とのそりそり  
如哉と如哉

ゆきそりそり  
佳布と美月のそりそり

徳と金とあささのそりそり  
と布とあささのそりそり

三月をささのそりそり  
三月八日 福也

いそりそり



立秋

初秋

去る年の秋は川門せりての事  
 秋のや樹下石空の掃のし露  
 雲霧や庭下一里の秋をこれ  
 川門のりとぬきをむの草や秋の風  
 文月や六日も昔に秋のしれを  
 三葉のちやてた石松や相の草  
 揚谷のやと大門を吹さるるは秋  
 ぬれさるるは秋のやと秋の  
 秋の秋ま川の中は秋のやと秋  
 初秋のやと秋のふの雨は秋のやと秋  
 とらふは秋のやと秋のやと秋

蓼冬 園更 露川 杉風 芭蕉 元兆 樓川 雨銘 素卿 尺布 曉雲

残暑

去る年の秋は川門せりての事  
 まるく秋のやと秋のやと秋  
 七夕 あら内娘さるの秋 たまのの娘 玉の娘  
 たりはあ七夕つあめをなすは秋のやと秋  
 ありねやと七夕日本紀あるの川 早のあちきり  
 妻の舟つらつらと秋のやと秋  
 秋のやと秋のやと秋

桃秋 梅舎

全秋のよおるは秋のやと秋  
 毎の秋のよおるは秋のやと秋  
 皇全秋のよおるは秋のやと秋

芭蕉 其角 涼茶

七夕やふりつとそとる天の河  
 船風やふ死もの暗れ園扇もち  
 乙扇  
 更けやあ田のうへに流るるの川  
 燈火  
 燈をくし松まのりててこの仙  
 華  
 ころむあふ舟の露やふらり星  
 冥秘  
 今宵介つらな夜もたえん星の意  
 関  
 下しあ燕をふら老もな死なう人  
 中  
 白かきや花も流るる時をさる  
 修  
 松竹うるるそそく日星は月れは  
 如  
 床子のそと七葉あづく銀河  
 成美  
 更けや花那まゆつるあ戸の川  
 露橋

鶴橋

七巧真

七巧真 七名まつととさあくあつて西人五色の巻を  
 けし通してまじをあらはき歌をさき夜道に書  
 をさきかたひくそふ荊楚歳時記を本橋原を  
 まつた花て身も色を船のを化し

願糸

一節の初をむいやまし一麻のいや  
 一片  
 立琴 五柱や三柱の松をうそをさあつ  
 蒸太

楓葉

楓のそまうそつくとらぬ身の形  
 器女

硯洗

まははは女硯のそまをさきらねを  
 卜枝

並園盆

初蓮の舟箱鬼の中におもて今年をさき  
 ちのちの作らるるんを成りしあ七月十九日百味五葉と

七多入也 天の河

嵐雪

秋風也 園扇もち

乙扇

空也 有田の川

暁然

海也 松の河

華天

眞世書也とのいふ世合すうて成はりて主筆書行

あり

弟さうか師の人か書きたれ

暁臺

魂祭

精霊被袖使を被枝豆根等麻はれ

むさくけぬれさひ。かまへ人の世まき本はりてふ

年うまのじ中も青うむんよあざれさう

あふと被忍使又んてさう

とらまとおまかけろふ形也魂まう

西堂

ひまうり極いひふふを色二う菊

遊人

武隈の招もかき雪やひまうり

二柳

た月あままの悪極もむさくし

素外

相徑

魂柳や見えま六我うけらうと

園更

麻不笑

た形身や影ひあう事うと点

清水

嵐屋菜

とそ霧中や影ひさとの松屋表

暁臺

了天

ねうりつれ月とありり川内

賊宗

大文字

たわうて月一点のむうり五宗

五宗

妙法大

うりあ人のえりやあの一宗とあ

何有

忍經笈

あしぬ字あまの陰れまうとあ

園更

揚屋表

そ龍籠登六あうま枝つり那

千那

曜

身とさそくの風を虫ありと龍籠

平砂

暁臺

盆月

ぼんげの月影さうと門をたたくをり

野坡

生身魂

なまみたまはわらわの酔いと空の月

夢由

差精

さしこころを我も道と入りまする

関更

相撲

こころは多葉まきお撲まき相撲けきまふ

萍舟

こころまふ 角力へ四季まきお撲まき相撲けきまふ

てんごうし七月お撲の年中らひく天子お撲後

まきお撲まき相撲

すまをりねくふせ柱のまき勢

嵐雪

和らごころとけりや膝角力

几莖

様をまきてお撲まき相撲

三葉

花火

捨扇

高向流

秋風

あきまきののちまきわさき

作者

こころまふ柳ちりす色と向流

子好

あきまきの柳ちりす色と向流

尺布

あきまきの柳ちりす色と向流

遊

あきまきの柳ちりす色と向流

越

あきまきの柳ちりす色と向流

許

あきまきの柳ちりす色と向流

凡

あきまきの柳ちりす色と向流

琴

あきまきの柳ちりす色と向流

五

あきまきの柳ちりす色と向流

凌

あきまきの柳ちりす色と向流

凌

潮候

冷身入

霧

霜毒

一葉散

柳ちり

桐葎

木槿

木槿

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

あまのついでに、ついで前のほろ市、  
雲南

女郎花

男郎花

萩

ふすけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

杉風

芭蕉

大江九

曉基

睡花

春由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

穠由

萩

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦

草花

まきふけやまきふけ

秋鉦





秋蟬

ぬけうつとかなしひて死す秋蟬

文州

秋蚊

火のしきり蟬の蚊影を

折風

秋蠅

あひのそおとむるふらふら

沙舟

秋蝶

秋の蝶ふりれむうとまりな

平角

小雀

小雀の心の中を

花蝶

鳩吹

山鳩は秋よりなげり人鳩のまじり

花蝶

合をふまなして鳩をとりて神仲間あり

たもとあや物ゆきとるきよみ海菜

露吟

鳩吹も流稀糸乃其まき

珠頰

八月

葉月

秋風月花月見月仲秋杜月竹春

桂月

夜来月南良伴は月城をんまよりの森

かりく色つとまえなつるなり加茂氣に輪八月に

穂を結ゆきなりなり月の下を思ききよみ

つとまよりの森のまき

夢太

八朔

八朔やかたのまき梅のまれさあ重厚

繪行墨

後山墨の筆をまき

人々のまきとあやみまき

西達平ともあひ

このまきとあやみまき

秋蟬

ぬけうつとかなうひて死す秋蟬

丈艸

秋蚊

火のいそがし秋蚊の蚊影を

折風

秋蠅

あけのそとに舞む秋蠅

浮舟

秋蝶

秋の蝶はまじりけむりともなり

平角

小雀

小雀の由來おのり小雀

花蝶

鳩吹

山鳩は秋よりかなけり

花蝶

合をふまかりしは鳩とては種中物あり

たふあや鳩とてはさふ山雀

鳩吹や浮舟系乃其まら細

珠願

# 八月

葉月 秋風月 花月 月見月 仲秋 杜月 竹春

桂月 雁来月 南長律 月見月 秋の葉月

やうく色つとてなつとてなり加茂氣は稀八月に

穂を結ゆをりなり月の上下と見まきとて見と

つとて見のまきとて見と

八朔

八朔やかたきし梅の志れさる

儉行墨

後醍醐天皇の御事

人々のこととてありありなり

西遊記とてありありなり

婿もその御風をうとて

婿やおおや物とくつて  
楚時

二百十日 君の代や二百十日もまのまはら祀 葵と大

駒連 ぬらの駒きりつて六羽 甲斐 信濃 上野

武義 赤國の御牧より 駒引とまるとの定 聖武

仇 髪も 膝のすくや 駒むつて 荷子

放生會 十者 舊儀 世務 回春 昌正 天台 表巻 老四 十九日

たとのひふまきの人をとりて ぬき放生會をけふ

今との夜宣ありて 花海 寺 待園 ともけりともて

うれしやと 救世 門より 鬼とて 敷 龍 蓋

待宵月 まるそ月やせし月 ちり月 物とて 菊乙

名月 ちり流月 ちり月 ちり月 名月 名月 名月

子月のまじり 弓張月 月子のまじり 本記

月の種月中よ 五百玉の樹ありて 西陽 新組あり

月の光月中の八豆のころにありて ちり

桂男 異剛とて 仙人 月中より ちりとて ちり男とて

ちり月 月中よ 三豆の注ありて ちり月の 月乃 月乃

月のちり 月乃 月乃 月乃 月乃 月乃

名月 ちり葉の旁や 田のちりとも 芭蕉

ちり月 ありて ちり月 ありて ちり月 ありて

ちり月 ありて ちり月 ありて ちり月 ありて

松一木の葉し熟なり頃す月 秋色  
うさぎの影 文母

今宵月一正月をたのむ是物無山 守武

立待月昔 月をたのむは山 守武

居待月今 月をたのむは山 守武

月待月昔 月をたのむは山 守武

有月今 ありの月をたのむは山 守武

初瀬 初瀬や時白を波の飛揚る母 嗚月

野木 けしきくして赤い海川時ふか 猿

月夜 月夜をたのむは山 守武

朝寒

やま

肌寒

よま

秋

初

花

新

萱

日夜よく時久き秋の月をたのむは山 守武

あまの月をたのむは山 守武

やまをたのむは山 守武

もろもろの月をたのむは山 守武

秋の月をたのむは山 守武

初瀬の月をたのむは山 守武

山守の月をたのむは山 守武

あまの月をたのむは山 守武

二日月ゆりては山 守武

うさぎの影や一あまの月をたのむは山 守武

新萱の影や一あまの月をたのむは山 守武

紫壳

赤茅

鬼灯

蕪花

秋海棠

花野

葛

葛

野菊

雞眼花

王瓜

秋菘子

芋

牛蒡根

木賊刈

藥渣

姜烟叶

薯蕷

葡萄

稻

子刈

史云の正角をわすれ志はつた

風をまやたもさうりふ

あつきの腸のけりてきこ

のすまふ虫の身えはけ

りて破の小貝にほりて

きまじりの先もほりて

山人の登き處を忘る

甘みさく戸風の吹山ふ

下宿塚へひとちりて

いひさやるのまふ

梅人

世三

春溪

也者

猛虎

任口

折風

地姪

四景

布且

芭蕉

さやふやわらふ

秋菘子とてれ糖と

一帯のさや芋の

生の危う引て

刈りて

甲斐多程や煙

波うねて

石の

石の

八木

酒

花城

光砂

艾考

素牛

葛孤

杜石

才磨

也者

石化

石化

酒

楸刈

粟

常字

鳴子

添水

落水

掛衣

夜田刈せぬく体も身てもや  
あつた種やうつた此舞角のこくま  
物のまをひらうたあとかたしり  
ま島よめはまゆしちやたうと  
やあうて月敷うつそわつう  
あうてこのまうたあうとあ  
ううて月あてあはまあう  
このあうまうたあうま  
あうてうたあうあうや  
あうてうたあうとあうま  
あうてうたあうとあうま

園更 官松 凡兆 野橋 路喬 園更 曉雲 日 日 悪毒 蕪冬

雁

初屋より燈とうなまうり  
耳より毛神ううといれ有のま  
さうてあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう  
あうてうたあうてうたあう

落楮 蕪冬 日 末遊 吳笠 春何 曉雲 小あ 露光 園更 日

鳴

鶉

鴨

鴉

翠鳥

山雀

四十雀

連雀

目白

頬白

啄木

百舌

鶉鴒

鶉鴒

福鳥

あまもせし鳴らつては夕べの鳥

鳴らつては夕べの鳥

志まきつては昔たの西行念佛附

桐の木まきつては昔たの西行念佛附

粟木の穂刈たては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

倚石

大江丸

芭蕉

支考

披曉

莫々々

文雅

桃溪

凡考

蜀黍

くうやのけりあつく袋の中

老の衣袋ありくうやの四十雀

まきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

おのふきり同もまきつては昔たの西行念佛附

桶花

芭蕉

一晴

詠素

三路

車走

凡考

園更

凡考

珠碩

文可

萬穀 歸燕

江の

色香

朝鳥

酒麻

太刀魚

こころをささぎつゝさあひながら白帆

二月までと逢ひよそや早草のし

たさに入ふてつとあのこといひて

降る月と風と親をそつとくく先

涼かき山の中やちやもさうさ

二百里の川くちやをさとりくちや

いろそや津田の沖にほそいめ

お鳥やうとつと末の梓豆の浦

葛川や石をさうさかへさつ

己年からさかへさうさかへさつ

たらの色は彩や空さして旅の夜

頂雪

二夜

大野

之芳

院甫

文江

兼太

航軍

和月

無諱

沙魚 鱸

雞

小襦

落黏

下菓

鹿

とを釣げつねさむさる 鱸ふく屋

細うそとわらうはさるうすまう水

むさうか類うりさけのみかろうか

この浦乃人ありささ元さへししし

落黏やましくふれおさるうさ

花科のほまゝやうしりちやか

鹿のまゝ人の殺しおゆさむれ

まうさむはあめめ鹿や風の香

鹿のまゝや鹿の香の好順氣

系柴 宜ま夏 修去 写妙 千代元 蓋山 一登 風睡 兼太 存義 園五



菊裁  
斑鳩  
帰燕

己つりあひさしむるは  
三月迄しとぞ捨りしや  
たつたえんふりてつ  
降る日ふれり初をそ

頂雪

二套

火跡

鹿笛 蛇入元 龍田飛  
 此れそや漢詩にてありき篇の法  
 こと通漢詩のこころ山よりけりあり  
 忘るる笛のこころ通て月と夜は  
 空を蛇まきこめくこころあり  
 蛇入元 蛇まきこめくこころあり  
 龍田飛 蛇まきこめくこころあり  
 三鼓

九月

竹のうき紅を月 花の山田川月の本陣月 睡るる月  
 梢秋 李陳菊月 李秋 曉秋 李秋待

此のうき月内とて月内とてし事あり  
 李秋待のうき月の下とてし事あり

九月の月 蛇まきの月あり

重陽 九月のうき月あり 重陽の月あり 九月とてし事あり  
 の形ありけりあり 李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋  
 とてし事あり 李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋  
 とてし事あり 李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋

李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋

李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋

愛祝

李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋

李陳菊の月あり 用ひて事ありの袋

後継茶

菊

のられのふさひも十二時交る菊 吉原  
かき茶系茶種と菊 大由 碎楊妃

きんめぬき 大雁さおと女先 隈君子

菊島 集あるまのふりりて 杉風

山路の菊 形をたも又ちひりり 越人

あつ菊 くれちりめさうぶしはたき 昌若

きく依切の菊 まつりもかりり 其角

よりわけの菊 あるまやうの菊 大州

上ののろの菊 おん色やゆき 咲堂

おん色やゆき とききくまに 麦光

菊と茶

まをりりるふりり菊はまをりり

蟾雨

菊合

さかゆや白なつ青の月ささす 雨後  
さかゆや白なつ青の月ささす 大江丸

十日菊

玉露ささす十日の菊とありて 園史

残菊

口く種は又ふりり 寸糸

寶市

けさ ぼんり 林の市ともいふ

林雲ささすふりり 逸人

後宵月

さある月のらけ月 葉原月 あつおの月

つきのわたりりさかす花のりりり

葉堂

原まは菊さあるふの月ささす

二柳

さかくさけり菊はあり 後の月

蟾雨

風爐系  
紅紫

梅  
楊  
若

鴨 脚 銀 杏 栗 園 栗 推 梯 金 抽 柘 梅  
嫌 擱 櫛 神

十之四と尺をぬ出せぬの定ちんん  
 のう氏月夜あり方乃園とこむ  
 後の月さうさうこむ乳さひ  
 月をて社まきしはるのこのう  
 菊のけとめては風船のたさう  
 さうさう大雅とくさう酒思爛  
 夕日乳れをさうさうさうさう  
 花のぬ本もく存せりさうさう  
 社まきもさうさうさうさう  
 さうさう也遊のさうさう梅さう  
 松もさうさうさうさうさう

園史  
 三零  
 雲竺  
 兼虫  
 昔角  
 青楓  
 蓼大  
 花冷  
 山翠  
 九江

若紅葉若も人下あもぬ山  
 一葉二葉のさうさうさうさう  
 さえあにけさうさうさうさう  
 け輝やさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさう

涼菖  
 松守  
 一竿  
 芭蕉  
 為香  
 杜粟  
 洒堂  
 冬茶  
 道肥  
 翠峰  
 仙布

松森  
松茸

茸抄

落搔

新茶

新酒

尾遊鴨

霜踏鹿

雀鳴鈴

狼齋歎

霜築

網代方

新綿

綿抄  
露霜  
秋夜

後の江氏山白草...  
まろくちや...  
松茸や...  
たけうらや...  
未枯や...  
うらや...  
新茶や...  
尾遊鴨や...  
霜踏鹿や...

其則  
雁  
芭蕉  
法圃  
其角  
愚兄  
後  
秋滿  
呂律  
萍草

若踏くつ...  
なまなり...  
穂の...  
ぬ...  
田...  
志...  
松...  
つ...  
お...  
秋の...

鴻水  
青橋  
晋法  
竜川  
友固  
故栖  
秋等  
勁風  
園更  
去朗

長夜

十月廿二日 散尾

ねあそりてふきくたのあそり外 尊白

秋暮

わきよけや人と起してなきよし 利字

いれ林の鳥のよりなく秋のうら 昔置

座浮かず負子て雨の秋のうら 水

行 焔

とみくくとはやきくせり秋のうら 煮き冬

九月盡

川あきのうきより秋のうら 土州

ゆき何などし秋のうら 夢太

弦子の弦くと切きて九月尽 夢太

十月

かきおのち 志これ月 秋お月 陽月 書言

良月 禊 奉正 奉の世れ正月 小春 上冬

孟冬 應鐘 律 孟冬 月秋加これ月といふ

律 律無そ 律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

律 律 律 律 律 律 律 律 律 律

初冬

百舌鳥の居る中江上神宮 蘭嵐

京の東へある冬の間はありあり 照貴

名もついで又と川をわたりて 晩臺

そのまや二のち千著とせむ 日

のつりとまれとゆきの月夜家 二柳

松のまや青兒おまの心づか 園文

神送

十月一八日神の出立は社へゆく

くるといふなり 神の縁 人めく

神の笛き るまのま 神宮のま

荒らる人めよとく 神あくと 奉取

あはれよとあまの神乃 権出れ 照貴

玄猪

伊波重又云猪 十月まの日は

肉を察よりなる縁と初顔

根はありなきとんぞとて人

ゆ風と又十月まの餅を合

ししあくよりいづれなり

何事とまのまおとほと云 道肥

射場

公事 根原は十月まの

あつて写をば現と神

射場送の宮内年中行の

白はるく山風さく 我切ひる 貞徳

達磨忌 十月五日

茶口切

建六也や炒茶を以て之を東西  
たるまきやさくもさされ油あけ

蘭任 夷山

口切や海とよめを合せしり  
くちまうやらつてのまは茶のま

其角 鳳足

爐開

口切りやあうつばのーく飛

於山

炉あきまを石をかりたるまの灰

齒箱

炉ひききや小箱をいれを丁の摩

百維

火爐

く印さ大箱を灰をさくころを

枕先

位つる旗れころや 金巨 糖

く名灰 木原

火桶

おころや火桶を張しを兼る

二種

火鉢

五十車かたり火鉢けはは紙

輪

埋火

おまうや火鉢のすくみゆきつて

尺布

十夜

くはくちや火とくちを火鉢のま

鯉秀

舟福寺経花會

九月廿九日十月十日とて七日の

月菊園堂して妙法の大さ成ひの  
十月の長園をた内屋行中皇有なり約唐史



乙子冬嗣とく 姑方かきうしん中 相原とくも

此法の事もあつてあしとく乳 来山

由取越 ありとくや指もさうしてはとくに 行十

夷諫 夷諫 亦うり子持を忘せりしわ 利合

多区 亦海藝も鴨と本又さう 芭蕉

時雨 多さうり人も年よりわくくわ 日

多由さくわもさうく飛夜のこと 其角

多ささけく何る身も飛夜は時 去来

多さくわ沖のく乳のま極行能 史邦

火社

本記

いそ人のまをれくけぬく 津田の替 走牛

まをれ牛のまを乃むくく 正秀

この流乃垣は法目や節くく 杜園

くくく禮ひハ又松をの 野坡

くくくれ目まま身もまをれまをり 北枝

時多くや袖もまをりあくく 岡定

くくくくくくくくくくくくくくく 日

くくくくくくくくくくくくくくく 燒書

くくくくくくくくくくくくくくく 深徳

くくくくくくくくくくくくくくく 夢太

霜 ころしも ぬきぬき 毛 毛の袴 袴のころし  
ころしの袴の毛 毛の袴

里人の見ころしの袴のころしも 宗因  
物衣をり、何となくをた 和れ中 其角  
ひころの毛や一葉く、のりきの毛 支考  
寺く、の袴をりく、ぬきぬきぬきぬき 菓太  
何となく、大の風出守 毛をたぬ 岡更  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 泉と  
ころしも、ぬきぬきぬきぬきぬきぬき 其角  
あつちぬきぬきぬきぬきぬきぬき 芭蕉  
本袴のころし、月の子はころしぬき 荷守

木枯

落葉

木のこりぬきぬきぬきぬきぬきぬき 東洋  
こりぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 丸釜  
唯一、ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 曉基  
ころしぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 也青

も、ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 也青  
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 圖南  
寄せぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 為宗  
暁のぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 國正  
儒のぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 眉山  
梨、ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 寒太  
汗、ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 寒太

落葉

梨

桃

杏

梅

橘

柿

茶花

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

園史 也有 越人 一略

枇杷花

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

瓜坊 以文

大葉花

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

瓜坊 以文

八重花

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

瓜坊 以文

冬牡丹

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

菴而 蘿道

山吹花

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

菴而 蘿道

冬日

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

菴而 蘿道

冬夜

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

菴而 蘿道

冬雨

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

冬月

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

冬山

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

冬川

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

冬野

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

松野

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

花のちやほやほやとく人かたの靈聖女

春香

柘柳

柘苺

柘蕨

柘薄

柘意

柘字

寒菊

冬柘

冬柘

冬柘

まきやうきまの門やあれやうき  
うらとまきやうか門やうきと池の魚

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

阿凉

行世

西深

五来

鬼了

宣長

をん

蓬太

祇徳

恭里

冬柘

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

谷あ

色莖

其角

荷号

文母

凡此

竹凡

五楊

五枝

野上

冬柘

冬柘

冬柘

冬柘

冬柘

冬柘

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

故極















子母くやあやう孫とてふ物守元 素遊

子燈心 子とてう志ん花系ふりしは痛くや 十言

空電忌十三 空也忌也くあくけふ古言さく 如酒

鐘敲 上る人の門も色をり鐘毎くき 辞六

一月とこれぬまあや也 沛く記 丈艸

大原謀 天を智者左解の言なり母月空家く

龍恩の海依おとすひけい在家ても赤小豆粥

とたまうしうけいとも

細くして敷のさうや大原珠 嘴山

佛佛事 親寧上人の忌ははく之サより共八

まふ形青くしてねとあふ

けの危兼あかや親も又くさき 貞枕

佛兼南都春日の神よりあまうといひ

馬の背より書け志うゆけい 西彦

二佛兼市 伊豆ふり

管をまふおもといくく市ゆれ 百萬

椿花 ちきりけい花わけさる却さく 師由

あひのちくてもあふり 柳のふ 子楓

冬兼 冬もれりも智あふくちゆゆ松 雨峰

くくぬすの来て吃たり冬ゆ松 喬志

室兼 凡てい又くくもあしや室れ松 葉文

水仙花

水仙花はあ仙やうな美ありてさう花もよし

葉太

中仙や瓶のいなきはすききり

花肥

一花も捨れぬ花もよし多仙花

右道

凍く夜や地より露をさする鹽

何宮

うのて中月をさすたのては川

舞國

るさあら後あやまれば高き

乙二

研るさや新改よなう院の月

さ何

さあや花けあわあゆり

友で

ひより花罪あけあす白く

梅中

ささりやのりさきさある破のさ

斗流

さあゆりさあさる雪れ丹波

晋儀

葱

雪海苔

郷

鯨

鮫鯨

牡蛎

乾鮫

藥喰

ゆきりりらら花妻のりく花爪

葉太

院やくらの咲くあまき海

吹雪

文圃よさあさるけうらうら

景五

人のさあな板あきさるるいんうか

園更

いりつれやゆりあす板舟山

葉太

あささきく刺の初風うらあかり

曉春

うらさけや日あめあめあめあめ

園更

かきこむたさきさきさきさき

園更

うらさき名刺のゆかりさきさき

比茎

うらさきさきさきさきさき

葉太

園更

之より之飛越すこころ路のうら  
鷺橋

松をそと山より定まらざるや  
金高

まろくす内鼻ゆひのうらま  
嵐悠

あつまをうらまのうらま  
羽毛

あつまをうらまのうらま  
三路

あつまをうらまのうらま  
表羅

あつまをうらまのうらま  
里秋

あつまをうらまのうらま  
葵太

あつまをうらまのうらま  
曉基

あつまをうらまのうらま  
香社

蕎麦湯

芋美酒

鶏卵酒

霰酒

猿

鷹狩

とら心

年忌

餘蔭

辛木

松賣

葉竹賣

梨松賣

白松立

年市

は方人の不喰ゆらり年忌  
槐之

は方人の不喰ゆらり年忌  
養戸

は方人の不喰ゆらり年忌  
曉基

は方人の不喰ゆらり年忌  
桃候

は方人の不喰ゆらり年忌  
霞漢

は方人の不喰ゆらり年忌  
散庵

は方人の不喰ゆらり年忌  
和十

は方人の不喰ゆらり年忌  
桐舟

は方人の不喰ゆらり年忌  
都置

年市

歳暮

年の暮れは... 市のおもて... けしき... 年の暮れ... けしき... 年の暮れ... けしき...

其の... 葉を... 日... 杉... 樹... 李... 恒... 趙... 尚...

年暮  
除夜  
大晦日

年の暮れ... けしき... 年の暮れ... けしき... 年の暮れ... けしき...

去来... 野坡... 芭蕉... 香月... 惟安... 其太... 晴... 一枝...

年日暮

無くとも... 大平... 同定  
... 山... 同  
... 核人



八十

芭蕉翁七書

同附合集評注

仇訛季守の袋

文化十四年丁丑九月

大阪書林

行脚撰 平中... 奥の細道 徳富集... 望七部合刊三冊

第一代の附合... 小本二冊

四季... 三切...

心春橋南

吉文字屋市右衛門

同 北久太郎町

塩 屋忠兵衛

同 北又室寺町

河内屋嘉七

蒲生



